

環境影響評価書

—(仮称)第二廃棄物広域処分場建設事業—

平成7年6月

東京都三多摩地域廃棄物広域処分組合

第1章 総括

1.1 事業者の名称及び住所

名 称 東京都三多摩地域廃棄物広域処分組合

管理者 白井 千秋

住 所 東京都府中市新町二丁目77番地の1

1.2 対象事業の名称

名 称 (仮称) 第二廃棄物広域処分場建設事業

事業の種類 廃棄物処理施設の設置

1.3 対象事業の内容の概略

本事業は、東京都西多摩郡日の出町に、一般廃棄物広域処分場を建設するものである。

事業の概要は、表1.3-1に示すとおりである。

表 1.3-1 事業の概要

名 称		(仮称) 第二廃棄物広域処分場	
位 置		東京都西多摩郡日の出町大字大久野字玉の内	
規 模	面積	全 体 面 積	60ha
		開 発 面 積 (埋立面積)	30ha (19ha)
		非開発面積	30ha
規 模	容量	全 体 容 量	370万 m^3
		埋 立 容 量	250万 m^3
		覆 土 容 量	120万 m^3
埋立廃棄物の種類		一般廃棄物のうち可燃ごみの焼却残渣、 不燃ごみ及び焼却不適ごみ	
工事期間 (予定)	処分場 建設工事	第1期	平成7年度～平成9年度
		第2期	平成9年度～平成13年度
		第3期	平成14年度～平成18年度
	廃棄物埋立処分	平成9年度～平成20年度	

1.4 環境に及ぼす影響の評価の結論

地域の概況と事業の内容を考慮して選定した予測・評価項目について現況を調査し、事業の実施が環境に及ぼす影響について予測・評価を行った。

評価の結論は、表1.4-1に示すとおりである。

表 1.4-1(1) 環境に及ぼす影響の評価の結論

予測・評価項目	評 価 の 結 論
1. 大 気 汚 染	<p>表土の除去及び覆土による土壌粒子の飛散については、飛散しやすい風の出現頻度は非常に小さく、土壌粒子の飛散はほとんどないことから、影響は少ないと考える。</p> <p>建設機械及び埋立用機械からの排出ガスについては、評価の指標を下回ることから、影響は少ないと考える。</p> <p>将来の道路環境大気質濃度については、現況濃度とはほぼ同程度であり、処分場関係車両による寄与は極めて少ないことから、影響は少ないと考える。</p>
2. 悪 臭	<p>廃棄物の埋立作業中及び埋立作業の完了後において、計画地の敷地境界での悪臭物質及び臭気濃度は、評価の指標を下回ることから、影響はないと考える。</p>
3. 騒 音	<p>建設機械から発生する騒音及び発破作業騒音については、計画地敷地境界で評価の指標を下回ること、計画地近傍の3地区で現況と同程度となることから、影響は少ないと考える。</p> <p>道路交通騒音については、処分場関係車両の走行による寄与分は1デシベル以下となり、影響は少ないと考える。</p>
4. 振 動	<p>建設機械から発生する振動及び発破作業振動については、計画地敷地境界で評価の指標を下回ること、計画地近傍の3地区で振動感覚閾値を下回ることから、影響は少ないと考える。</p> <p>道路交通振動については、処分場関係車両の走行による寄与分は1デシベルとなり、影響は少ないと考える。</p>
5. 水 質 汚 濁	<p>降雨時に改変区域から発生する土砂及び濁水は、防災調整池等により濁水処理を行った後放流されるため、現状の水質環境がほぼ維持できると考える。</p>
6. 地 形 ・ 地 質	<p>計画地の地盤は、硬岩及び中硬岩を主体とする岩盤（川井層）及び締りの良好な砂礫層（大荷田礫層）からなり、主要施設の建設や廃棄物の埋立に対して十分な地耐力を持つことから、地盤変形は少ないと考える。トンネル区間についても、締りの良好な砂礫層であることから、地盤変形は少ないと考える。</p> <p>また、計画地の切土は関係規準の標準切土法面勾配に準拠すること、貯留堤の盛土は所要安全率を上回ることから、斜面の安定性は確保される。</p>

表 1.4-1(2) 環境に及ぼす影響の評価の結論

予測・評価項目	評 価 の 結 論
6. 地形・地質	<p>これらのことから、計画地の周辺についても地盤変形が生じることはないとは評価される。</p> <p>土砂の変動については、その流動を抑えるため砂防ダム及び防災調整池等の防災施設の整備を行うことから、玉の内川に影響を及ぼすことはないとは考える。</p> <p>雨水の流出については、同量の降雨を想定した場合、埋立作業の完了後（改変後）では現況と比較して、計画地流末において32.3%の増加、玉の内川流末において8.4%の増加が予測され、表流量は年間で流出増と考えられる。また、計画地流末には防災調整池が設置されるため、一時的な異常出水等は緩和されると考える。</p> <p>計画地及びその周辺の地下水の流れに関しては、残留緑地により尾根部の切土は極力避けられていること、主要な掘削は計画地内の貯留堤上流部に限られていることから、地下水位の低下範囲は埋立地内に限定され、地下水位の低下量も小さいと考える。</p> <p>計画地周辺の地下水の変化については、埋立作業の完了後（改変後）には現況と比較して、玉の内川流域の〔地下浸透量+蒸発散量〕が14.2%減少するものの、河川水や他流域からの地下水の涵養が見込まれることから、影響は緩和されると考える。</p>
7. 植物・動物	<p>工事の施行中には、計画地の改変区域において植物の生育環境が消失するが、計画地のうち50%程度を残留緑地として確保するとともに、注目される種については残留緑地内に移植し、可能な限り保全する。</p> <p>また、工事の完了後は、順次、緑化を実施することから、陸上植物に及ぼす影響は少ないと考える。</p> <p>工事の施行中には、計画地の改変区域において動物の生息環境の消失及び改変区域外への個体の移動が考えられるが、計画地のうち50%程度を残留緑地として確保するとともに、注目される種については、計画地内東側に設ける保全ゾーンにおいて可能な限り生息環境の確保に努める。また、工事の完了後は、順次、緑化を実施し、生息環境の形成を行う。</p> <p>以上のことから、陸上動物に及ぼす影響は少ないと考える。</p> <p>計画地の改変区域では、水生生物の生育・生息環境は消失するが、計画地から下流の谷古入沢及び玉の内川の河川環境は、降雨時の流量増、平常時の若干の流量減が見込まれるものの、水生生物の生育・生息環境の変化の程度は小さく、周辺地域の水生生物に及ぼす影響は少ないと考える。</p>
8. 景 観	<p>計画地内に残留緑地を確保してスカイラインとして視認される尾根部を保全し、眺望の変化を抑えることなどから地域景観の特性の変化は少ない。また、代表的な地点からの眺望の変化についてはハイキングコース入口からの景観が、浸出水処理施設の築造に伴い人工的な景観へと変化するが、その他の地点からの眺望の変化は少ない。</p> <p>以上のことから、本事業の実施により景観に及ぼす影響は少ないと考える。</p>

1.5 評価書案の修正の概略

評価書案の修正の概略は、表1.5-1に示すとおりである。

表 1.5-1(1) 修正内容

修正箇所	修正事項	修正内容及び修正理由
第2章 対象事業の目的及び内容 2.2 事業の内容 2.2.3 施設の配置及び構造	しゃ水工	しゃ水工構造の法的根拠、しゃ水工構造の全体について、記述を補足した。 混合土、保護材、しゃ水シート、保護土の役割、材質、厚さ、強度、施工方法等について、屋内試験、屋外試験施工の結果を踏まえ、記述を追加した。
	浸出水集排水管	集排水管の管径の根拠等について、記述を補足した。
	モニタリング専用管	構造、配置、モニタリング方法、グラウト材注入方法、グラウト材の性状について、記述を追加した。
	浸出水処理施設	浸出水調整池容量について記述を補足した。 浸出水処理施設から発生する汚泥の処理方法について、記述を追加した。
	防災調整池等	埋立地内に設ける防災調整池、仮設調整池・沈砂池等の位置・規模等について補足した。 堆砂する土砂の処理方法について、記述を追加した。
第5章 現況調査、予測及び評価 5.1 大気汚染 5.1.2 予測	予測事項	ガス抜き管（堅型浸出水集排水管）から発生する大気汚染物質を予測事項から除外する理由を追加した。
	予測方法	建設機械及び埋立用機械からの排出ガスの予測手法について記述を補足した。
	5.1.3 評価	年平均値から日平均値への換算に地域性を考慮したデータを用い、日平均値を再計算した。
	5.3 騒音 5.3.2 予測	予測条件
5.4 振動 5.4.2 予測		予測条件

表 1.5-1(2) 修正内容

修正箇所	修正事項	修正内容及び修正理由
5.5 水質汚濁 5.5.2 予測	予測事項	浸出水処理施設及び管理棟の建設に伴う濁水の流出について予測事項から除外した理由を記述した。
	予測方法	濁水量の算出過程、流出係数、濁水流出防止対策を補足した。
5.6 地形・地質 5.6.1 現況調査	調査方法	ボーリング調査方法、透水試験方法等について、記述を補足した。
	調査結果	地盤の工学的性質、透水性、土質試験結果、地下水の状況等について記述を補足した。
5.6.2 予測	予測結果	貯留堤の安定計算について、記述を補足した。 雨水の流出及び地下水の変化の程度に関する予測結果の記述の一部を追加した。
5.7 植物・動物 5.7.1 陸上植物 5.7.1-2 予測	予測結果	移植対象種の移植適地等に関する記述を追加した。 緑の量の変化の程度に、緑の体積の変化の記述を追加した。
5.7.2 陸上動物 5.7.2-2 予測	予測結果	動物相の変化がわかるよう、記述を追加した。 保全ゾーンについて記述を補足した。
5.7.3 水生生物 5.7.3-2 予測	予測結果	生育・生息環境の変化の程度について、水量の変化の記述を補足した。
第7章 環境保全のための措置	-	前文として、環境保全のための措置に対する姿勢を記述した。
7.4 水質汚濁	-	土砂及び濁水の流出防止対策を追加し、汚泥の処理方法について記述した。また、外部環境への影響の監視について記述を追加した。
7.5 地形・地質	-	外部環境への影響の監視について、記述を追加した。
7.7 景観	-	浸出水処理施設周辺の修景について、記述を追加した。